



2023年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年8月14日

上場会社名 株式会社アミファ 上場取引所 東
 コード番号 7800 URL <https://www.amifa.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤井愉三
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 川上康夫 TEL 03 (6432) 9500
 四半期報告書提出予定日 2023年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第3四半期の業績 (2022年10月1日～2023年6月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同期四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第3四半期	6,358	43.5	246	△26.8	270	△14.9	169	△14.8
2022年9月期第3四半期	4,429	21.2	336	27.7	318	18.2	198	22.2

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第3四半期	52.94	—
2022年9月期第3四半期	61.35	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		%
2023年9月期第3四半期	3,499		2,403		68.7
2022年9月期	3,084		2,472		80.2

(参考) 自己資本 2023年9月期第3四半期 2,403百万円 2022年9月期 2,472百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	0.00	—	24.00	24.00
2023年9月期	—	0.00	—	—	—
2023年9月期 (予想)	—	—	—	24.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年9月期の業績予想 (2022年10月1日～2023年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,000	35.1	164	△44.4	164	△36.9	102	△54.0	32.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

(注) 今回の修正予想の当期純利益は据え置いておりますが、1株当たり当期純利益の増加は自己株式の取得によるものです。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料 6 ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年9月期3Q	3,235,000株	2022年9月期	3,235,000株
② 期末自己株式数	2023年9月期3Q	240,049株	2022年9月期	49株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年9月期3Q	3,194,511株	2022年9月期3Q	3,234,998株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(重要な後発事象)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間（自 2022年10月1日 至 2023年6月30日）におけるわが国経済は、急激な円安や原材料コスト上昇を受けて消費者物価は上昇傾向にあります。ウイズ・コロナの新たな段階への移行が進められる中での個人消費回復の動き、金融緩和の継続、株式市況の活況など緩やかな持ち直しの動きがみられました。

こうした環境下、当社はクリスマス、バレンタイン等のイベント関連商品が好調に推移したほか、ウイズ・コロナの新しいトレンドを積極的に取り込み、新企画、新商品提案を行った結果、売上高は大幅増となりました。一方、物流費削減をはじめとした原価低減、生産性向上努力の効果がありませんでしたが、円安による商品仕入価格高騰の影響がそれらを上回り、前年同期比減益となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の経営成績は以下のとおりであります。

(千円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
当第3四半期累計期間	6,358,436	246,088	270,920	169,108
前第3四半期累計期間	4,429,878	336,241	318,509	198,459
増減額	1,928,558	△90,153	△47,588	△29,350
増減率 (%)	43.5	△26.8	△14.9	△14.8

売上高は、前年同期比1,928,558千円増加（同43.5%増）の6,358,436千円となりました。

これは、消費者がコロナ禍後の新しい生活様式に慣れ、当社の主力とする嗜好品を好む余裕が生まれたことと、内部要因としては、その新しい消費者マインドに深くマーケティングした効果が現れ、商品ヒット率が大きく向上した効果が表れた結果と分析しています。第1四半期及び第2四半期はクリスマスやバレンタインといったイベント関連商品の販売数増加が売上を牽引しました。また、「イェナカ消費（巣ごもり消費）」の需要を的確に捉えた商品や小売価格100円より高価に感じられる「高見え」新商品群のヒットに加え、ライセンス企画商品の拡大もあり、年度を通じて販売できる「通年型商品」の販売数が増加しました。これにより、第3四半期も売上が堅調に推移し、前年同期比43.5%増と大幅に伸長しました。

なお、当第3四半期累計期間における当社のライフスタイル雑貨の商品群別累計売上高は、下表の通り、「ワンプライス商品」が6,016,515千円（前年同期比45.0%増）、「プチプライス商品」が341,921千円（前年同期比22.0%増）となりました。

(千円)

	ワンプライス商品	プチプライス商品	合計
当第3四半期累計期間	6,016,515	341,921	6,358,436
前第3四半期累計期間	4,149,524	280,354	4,429,878
増減額	1,866,991	61,567	1,928,558
増減率 (%)	45.0	22.0	43.5

営業利益は、前年同期比90,153千円減少（同26.8%減）の246,088千円となりました。

これは、販売数量の大幅な拡大や価格改定交渉による増益効果があったものの、円安による原価への影響を吸収することができなかったこと、また販管費においても、物流費削減努力やDXの取り組みで一定の成果はあったものの、労務費の増加等の減益要因があったことによるものです。

経常利益は、前年同期比47,588千円減少（同14.9%減）の270,920千円となりました。

これは、営業外損益において、前第3四半期累計期間において営業外費用に為替差損17,554千円がありましたが、当第3四半期累計期間は営業外収益に為替差益24,988千円があったこと等によるものです。

以上の結果、四半期純利益は、前年同期比29,350千円減少（同14.8%減）の169,108千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は3,342,593千円となり、前事業年度末に比べ408,261千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が184,120千円減少した一方、棚卸資産が557,902千円増加したことによるものであります。固定資産は157,326千円となり、前事業年度末に比べ6,919千円増加いたしました。これは主に有形固定資産が3,849千円増加、無形固定資産が2,698千円増加したことによるものです。

この結果、総資産は3,499,920千円となり、前事業年度末に比べ415,181千円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は806,820千円となり、前事業年度末に比べ477,684千円増加いたしました。これは主に短期借入金が400,000千円、未払法人税等が82,145千円増加した一方、賞与引当金が36,837千円、1年内返済予定の長期借入金が17,500千円減少したことによるものです。固定負債は289,281千円となり、前事業年度末に比べ6,598千円増加いたしました。これは退職給付引当金が6,598千円増加したことによるものです。

この結果、負債合計は1,096,102千円となり、前事業年度末に比べ484,282千円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は2,403,817千円となり、前事業年度末に比べ69,101千円減少いたしました。これは主に四半期純利益が169,108千円、配当金の支払いが77,638千円、自己株式の取得が157,200千円あったことによるものです。

この結果、自己資本比率は前事業年度末に比べて11.5ポイント減少し、68.7%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

売上高につきましては、クリスマス、バレンタイン等のイベント関連商品がコロナ禍の落ち着きに伴って好調に推移したほか、ウィズ・コロナの新しい生活様式を積極的に取り込んだ新企画、新商品の提案を行った結果、新商品のヒット率が大幅に上がり、大幅な増収となる見込みであります。なお、この売上高は過去最高であります。

一方、利益につきましては、売上高の大幅な増加による増益、円安を踏まえた価格改定交渉、物流費を中心とした原価低減、生産性向上等の成果が上がっておりますが、円安による商品仕入価格高騰に相殺される見込みのため、業績予想を据え置いております。

なお、2023年9月期の業績予想については、同日に公表した「2023年9月期業績予想の修正に関するお知らせ」のとおりです。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	898,135	714,015
受取手形及び売掛金	556,416	599,207
電子記録債権	3,698	5,580
棚卸資産	1,315,296	1,873,199
その他	160,914	150,590
貸倒引当金	△130	-
流動資産合計	2,934,331	3,342,593
固定資産		
有形固定資産	46,691	50,540
無形固定資産	41,385	44,084
投資その他の資産	62,330	62,701
固定資産合計	150,406	157,326
資産合計	3,084,738	3,499,920
負債の部		
流動負債		
買掛金	32,693	83,192
短期借入金	-	400,000
1年内返済予定の長期借入金	17,500	-
未払金	212,630	205,134
未払法人税等	-	82,145
賞与引当金	36,837	-
その他	29,475	36,348
流動負債合計	329,136	806,820
固定負債		
退職給付引当金	28,348	34,946
役員長期未払金	254,335	254,335
固定負債合計	282,683	289,281
負債合計	611,820	1,096,102
純資産の部		
株主資本		
資本金	37,220	37,220
資本剰余金	273,468	273,468
利益剰余金	2,121,713	2,213,182
自己株式	△31	△157,231
株主資本合計	2,432,370	2,366,639
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	40,548	37,177
評価・換算差額等合計	40,548	37,177
純資産合計	2,472,918	2,403,817
負債純資産合計	3,084,738	3,499,920

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
売上高	4,429,878	6,358,436
売上原価	2,584,796	4,224,898
売上総利益	1,845,082	2,133,538
販売費及び一般管理費	1,508,840	1,887,450
営業利益	336,241	246,088
営業外収益		
受取利息	3	2
為替差益	-	24,988
固定資産売却益	-	1,038
受取補償金	369	386
その他	40	434
営業外収益合計	413	26,851
営業外費用		
支払利息	444	1,216
為替差損	17,554	-
固定資産除却損	-	428
自己株式取得費用	-	333
その他	146	39
営業外費用合計	18,145	2,018
経常利益	318,509	270,920
税引前四半期純利益	318,509	270,920
法人税等	120,049	101,812
四半期純利益	198,459	169,108

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

当社は、2023年5月15日開催の取締役会決議に基づき、自己株式240,000株の取得を行いました。この結果、当第3四半期累計期間において自己株式が157,200千円増加し、当第3四半期会計期間末において自己株式が157,231千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に見積実効税率を乗じて計算しております。

(重要な後発事象)

(多額の借入の実行)

当社は、取引銀行3行と当座貸越契約を締結しておりますが、売上の急拡大に伴う運転資金需要増加を考慮し、極度額を1,900百万円から2,400百万円に拡大いたしました。

また、下記の条件で当座貸越を利用し、四半期末日以後に300百万円の借入を実行しました。

内容

① 資金使途	運転資金
② 借入実行額	200百万円
③ 利息	基準金利+スプレッド
④ 借入実行日	2023年7月14日
⑤ 当座貸越契約期限	2024年2月29日
⑥ 担保提供資産の有無	無担保、無保証

① 資金使途	運転資金
② 借入実行額	100百万円
③ 利息	市場金利に連動する変動金利
④ 借入実行日	2023年7月18日
⑤ 当座貸越契約期限	2024年4月1日
⑥ 担保提供資産の有無	無担保、無保証